

デンソー山岳部 2019 年度 春合宿報告書

◇ 山城 北アルプス白馬岳

◇ 日程 平成 31 年 4 月 27 日～4 月 28 日

◇ メンバー 舘谷昌弥(CL、車、会計)
小田修三(SL、装備)
藤本悠(食糧、記録)



<第1日> 4/27(土) 雪【小田 記】**【行動記録】** 行動=1H30M(幕営除く)

猿倉駐車場(11:30)→白馬尻小屋(13:00)

朝一に刈谷を出発し、一路白馬へ向かう。途中雨がばらついている所もあり、今日のテン場までの道程で雨に打たれてしまうことを懸念する。白馬駅の辺りまでは雨であったが、猿倉駐車場に向かう途中の山道で雨は雪に変わった。駐車場には既に車が並んでおり、準備しているパーティも見られた。我々も準備し早速山行開始。林道をショートカットしながら登って行ったが、途中沢沿いを離れてしまったため、トラバースして進路を修正。程なくして白馬尻小屋の辺りに到着。小屋自体は見えないが先着のテントが数張りあった。整地してテントを設営。これから天候が悪くなることを考え、テントの周りに雪のブロックで防風壁を設置した。この間に段々と風と雪が強くなってきたため、程々にしてテントの中に逃げ込んだ。夕方から夜の間はかなりの強風に吹かれテントの倒壊を心配するほどであった。明日の朝までにどれ程の雪が降ることかと心配しながら、メンバーで夜御飯のすき焼きをつつきながら明日の山行の成功を祈って乾杯。

**<第2日> 4/28(日) 晴れ時々曇り【藤本 記】****【行動記録】** 行動時間: 11H30M (テント、荷物回収を除く)

幕営地発(04:30)→白馬山頂(11:30)→幕営地(14:30)→猿倉駐車場(17:00)

3時に起床すると前日の強風が嘘のように静かで済んだ空になっていた。満天の星空の元、意気揚々とテント場を出発した。先行パーティ(後に2名と判明)がいたのでトレースを頼りに進む。小1時間で尾根にとりついたが、直前のトラバースは雪崩そうな急斜面であったので各人の間隔をあけて慎重に進んだ。尾根の取りつきで1本とる。



尾根の取りつきで小休憩

尾根に取りついてから 30 分ほどで最初のナイフリッジが登場。リッジの左側を進むが、その斜面は果てしなく切れ落ちており滑落すれば 200m, 300m はとまらないイメージ。また、時折強く吹き込む右側からの風に緊張感をより一層あおられた。ここから先はこのようなナイフリッジと急斜面の連続であり、気を緩められる場所はほとんどなかった。



最初のナイフリッジ



リッジの上から

標高 2237m 手前では先行パーティが左にトラバースして尾根から巻いていたところを直登しようとしたが、幅 2m ほどのクラックに行く手を阻まれる。露出していた岩とブッシュを頼りに雪壁をよじ登りそのまま直登した。



クラックを直登



6 峰手前のリッジ

この後も続くリッジと急登とトラバースに次第に体力を奪われ、藤本のペースが落ちていく。肉体的な疲労に加えて絶え間ない緊張感による精神的な疲労が大きかったと思われる。ゆっくり休める場所はほとんどなく、尾根に取りついて以降、最後の雪壁までの休憩は 1 回。9 時頃に後続のソロ登山者に抜かれ、最後の雪壁の直下でさらに後続のパーティに追いつかれた。標準的なペースから 1 時間ほど遅いと思われた。

ただ、雪の状態が非常に良かったことには助けられた。新雪が場所によってはひざ下くらいまでついていて、先行パーティのトレースがあったためラッセルはほとんどなかった。また、新雪が飛ばされた箇所がところどころあったが、凍った状態ではなくアイゼンが良く効いた。太陽が昇った 7 時頃から

薄雲が出てきたことで、行動が遅れたものの雪が緩むことはなかった。



6 峰から見上げる稜線



大雪溪へ切れ落ちるリッジ

10 時半ころに最後の雪壁に到着。アックス 2 本で支点を作りボディビレイでリードの館谷が登攀。50m ロープで足りるという目測であったが、ラスト 10m ほどでロープが足りなくなった。無線で連絡を取り合い、館谷がセルフビレイを取った後に、右手上方の岩付近にビレイステーションの移動を試みた。しかし、左手の岩より上が斜度が増したため中途半端な登攀体制では厳しいこと、リードのセルフが万全でないため早急にビレイを開始したほうが良いことから、左手の岩陰でビレイを再開した。ロープが足りるか不安であったが、残り 1.5m で無事に登頂した。セカンドの藤本はアッセンダーで登攀。時間が掛かったものの何とか登攀。サードの小田は難なく登攀し、11 時半に全員が登頂した。山頂からの眺めは最高。北は能登半島と日本海、南は富士山まで見渡せた。達成感に浸れる瞬間であった。

今回の登攀において、50m ロープで足りると目測を誤ったことがミスの一つであったが、その場合の行動を事前に確認できていなかったこと、ロープが不足することをリードに連絡するタイミングが遅かったため行動が制限されたことが反省点であった。この登攀の間に後続が次々と到着して 10 名ほどの渋滞ができていた。最後の雪庇の乗越は雪庇をぶち壊した 1 か所が基本的なルートとなるが、1 つのパーティは東側に新たなルートを開拓していた。このパーティは肩がらみでビレイをすることで、途中でロープが足りなくなった際にビレイヤが機敏に行動することができており、参考になった。他にはランアウトするパーティ（ソロを含む）が 3 つ、コンテで登るパーティが 1 つあった。



クライマックスの斜度 60 度と噂の雪壁



リードは館谷



ラスト 10m でロープ一杯。ビレイヤは正面の岩へ。



セカンドは藤本



サードは小田



最後の乗越



山頂から振り返る稜線



山頂写真

下山は大雪渓を通行。尻セードなどで遊びながら下っていくが、山頂で高山病の症状が出ていた藤本の体調が悪化しペースが上がらない。山頂でダイヤモンドを服用し、高度を下げることで回復すると思われたが、一向に改善しないことからシャリバテを併発していたと思われる。常に緊張感を強いられたことで小まめな補給を怠り、朝食の600kcalと行動食800kcalしか摂取できていなかった。また、緊張により普段以上に体力を奪われていたことも一因と思われる。途中まで下山したところで館谷と小田は荷物を回収するために藤本と別れて先を急いだ。藤本は14時半過ぎに幕営地に到着。荷物を回収し、15時過ぎに下山を再開。へろへろの藤本にペースを合わせて16時半に猿倉駐車場に到着。風呂に入り、トンカツを食べ、刈谷に着いたのは23時であった。

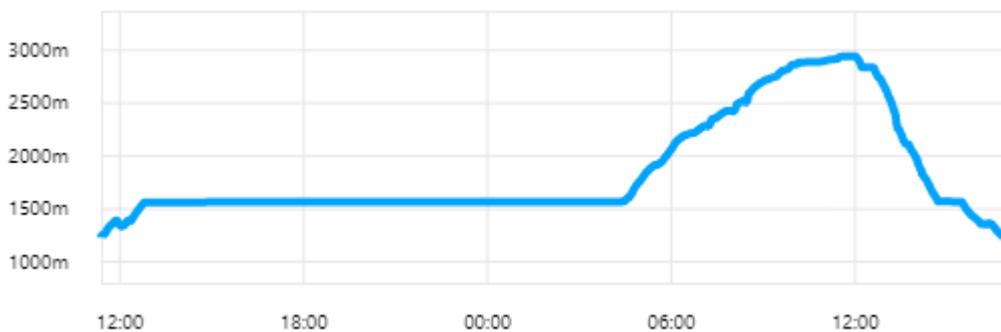
2日目は藤本がサングラスをテントに忘れたため裸眼で行動していたが、帰りの車内で雪盲を発症した。山頂付近で目のかすみを感じはじめたが、下山完了時には特に異常がなく、トンカツを食べた19時頃にライトがぼやけて見えるようになり、SAに立ち寄った22時頃には目が開け辛く全体的に視野が白く霞んで見えるようになった。刈谷到着時はまともに歩けないほどであったため、帰宅を諦め駐車場の車内で睡眠をとった。翌朝には回復したため無事に帰宅した。2,3日は目の充血とドライアイのような感覚があったが、ほどなく完治した。



分かりにくい尻セード中



へろへの藤本。隣のデブリがすごい。



1日目と2日目のコースデータ

【装備 小田】

今回も装備はかなり軽量化を図った。ザイルは50mのダブルロープのみで臨んだが主稜の最後の雪壁では若干短かった。次回また挑戦する際には60mか、50mを2本用意すべきである。トランシーバはトップと連携するのに非常に役に立った。今後も活用して行きたい。

【気象 藤本】

今回も大矢さんの天気予報サポートをいただきました。ありがとうございました。

<4/25の大矢さんのメール引用>

4/27(土)

昼頃に新潟沖で低気圧が発生、秋田付近に進みます。白馬岳付近は前日から雪が降り続き、次第に気

温が低下して、稜線の風が強まり大荒れ。

4/28(日)

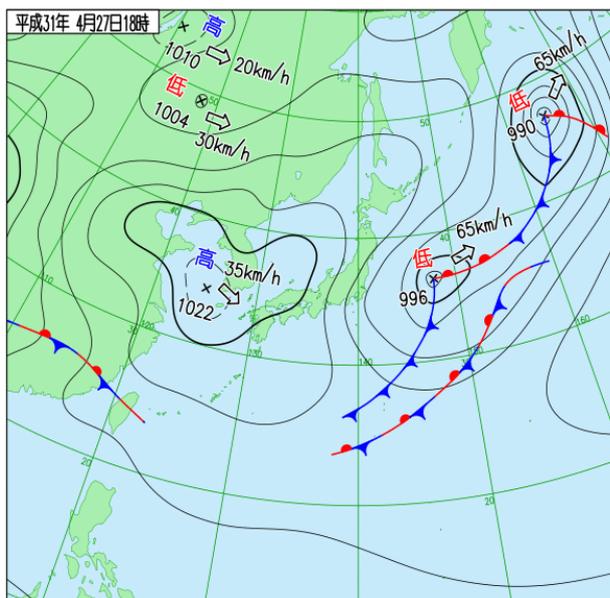
朝までに 40~45cm ぐらいの降雪量が予想されます。大陸から移動性高気圧が進んでくるため、雪は前夜には止み、夜中には晴れる見込み。6 時頃まで稜線の風が強く、標高 3000m で-5~-4℃。25 日にいったん融けた雪の上に新雪が乗りますので、雪の状態にご注意ください。最後の東斜面の雪壁で、西からの強風で新雪が雪庇状になっている可能性も考えられます。

<結果>

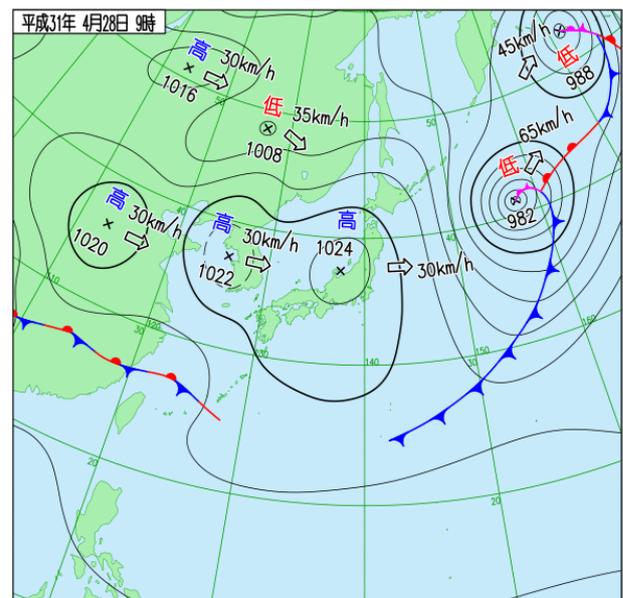
27 日は猿倉駐車場に着いた 11 時から雪。白馬尻に到着した 13 時頃から次第に強い風強まり始めたため、テント場を掘り下げて強風に備えた。また、気温も次第に低下し、テント設営後は転がり込むようにテントに入った。雪は 18 時頃に止んだが、風は強まり続け、時折テントが壊れるのではないかと心配になるほどであった。少なくとも日付が替わるころまでは強風は治まらなかった。

28 日は起床した 3 時から快晴でほぼ無風。絶好のアタックチャンスであった。大矢さんの予報通り、積雪は 40cm 前後。太陽が昇った 7 時ごろから薄雲が広がり雪解けを遅らせたことで、雪が程よく締まって歩きやすかった。凍った雪の上に新雪が降り積もることで、特に大雪渓での雪崩が心配されたが、歩行中に凍った下層を感じることはなく、圧雪と新雪の密着性はそこそこあったように思われた。

27 日天気図



28 日天気図



【食糧 藤本】

<1 日目夜> すき焼き+メのうどん

翌日に向けて精力を養うため、晩飯はすき焼きとした。1 回戦は鶏モモですき焼き、2 回戦は国産牛ですき焼き。コスパ良く美味しさと量を求めて食材を選択した。メは炭水化物を取るためにうどん 2 玉。3 人ともおなか一杯となった。

食材 (3 人分)

牛肉 300g、鶏モモ肉 200g、長ネギ 3 本、人参 1 本、はくさい 1/2 玉、えのき 1 束、水菜 3 束、うどん 3 玉、卵 4 個

<1 日目昼、2 日目朝と昼>

食糧、飲料ともに個人で用意。

【会計 館谷】

車消費費 3,070 円 (614km×5 円)

ガソリン代 8,900 円 (614km÷10km/L×145 円)

高速代 7,740 円 (豊田南⇄安曇野 往復)

食費 2,400 円

合計 22,110 円

【リーダー所見 館谷】

初日は中々に荒れた天気、北アルプス各地で事故があったようだが、メインの二日目はこれ以上ないコンディションの中で登ることができ、非常に幸運であった。反省点として、雪上でのアンカー構築やロープワークをメンバー間で練習することなく臨んでしまったことがあげられる。次回以降は、最後の雪壁で起こったような不測の事態にも臨機応変に対応できるように練度を高めていきたい。

【メンバー感想】

初日の荒れた天候の中、テントの中で翌日の風雪を心配していたが、2 日目は晴天に恵まれ、最高のコンディションでの山行となった。白馬主稜は高度感のあるリッジの続く、緊張を強いられるルートであったが、振り返ると魅力的なスノーリッジが続いており雪稜歩きを満喫できた山行でした。同行のメンバーとサポート頂いた方々に感謝。（小田）

初めての雪山アルパインルートであったが、恐怖心と疲労と雪盲でかなり苦い経験となった。下山時はもう厳しい雪山はやりたくないと思っていたが、数日経って振り返っているうちにその気持ちが薄まってしまうほどに素晴らしい景色であった。もっと楽しめば良かったとか体調管理でどうすべきだったかなど後悔が大きいですが、今回のようなルートでしか味わえない緊張感や達成感を味わえたのはよい経験であった。経験豊富な同行の二人におんぶにだっこ状態であったが、このような経験をさせてもらえたことに感謝したい。また、サポートして頂いた方々にも感謝したい。（藤本）